



# いわて災害看護研修会

責任者：馬林 幸枝 共同者：蘇武 彩加, 尾無 徹, 藤澤 望, 中崎恵理捺

令和6年度岩手県立大学看護実践研究センター事業

## ●活動の概要

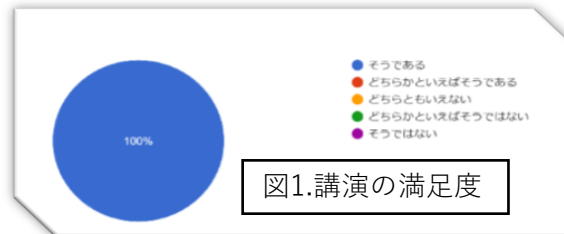
令和5年度に岩手県内外の病院・施設等の看護職を対象に、災害看護研修に関するニーズ調査を行った。この調査結果を基に、**現場の看護職の求める研修会を計画的に継続・実施**していくこととしている。このことにより、災害看護や災害医療などの関心の高まりを受け、啓発活動になるだけでなく、災害発生時の防災活動・支援活動において、看護職が役割を發揮していく一助となることが期待できる。

令和7年度は「**災害時の女性支援**」について、**グループディスカッションも交えた研修会を開催した。**

## ●活動の成果

参加者は市町村、病院等に所属する保健師や看護師17名であった。研修後のアンケートでは**講演・演習内容に「満足できる」10割**、「**今後役に立ちそう**」約9割で**一定の成果**がみられた（図参照）。

## ●アンケート結果の概要/研修会の様子



### 《参加者の声》

- ・災害時の女性支援の視点で具体的な内容で勉強になった。
- ・平時から今日の内容を住民に知らせていきたい。
- ・女性ならではの災害時の困りごとについて、解剖学や社会的性差の視点からつなげて学ぶことができた。



### 《参加者の声》

- ・災害下での女性の困難について、緊急度の高い人が優先され、健康であるからと優先度は下がること、特に化粧品の物資には男性的思考だと批判されやすい部分は考えさせられた。また自治体内での葛藤など課題を浮き彫りとし、社会的な議論が求められると感じた。

